

「第 5 回令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」の検討報告

1 開催日程 令和 4 年 1 1 月 1 1 日(金)

2 検討内容と主な意見

○県立高校のあり方に関するアンケート調査結果について

ア 調査の目的

この調査は、「魅力と活力ある学校づくり」を目指す県立高校の、今後のあり方について検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

イ 調査の対象と回収状況

	標本数	有効回収数	回収率
公立中学校 3 年生・義務教育学校 9 年生	908	735	80.9%
公立中学校 3 年生・義務教育学校 9 年生の保護者	908	480	52.9%
県立高校 2 年生	2,160	1,461	67.6%
県立高校 2 年生の保護者	2,160	934	43.2%
県立高校卒業生	388	189	48.7%
教育関係者	445	371	83.4%
県内に事業所を有する企業	800	407	50.9%
合計	7,769	4,577	58.9%

ウ 調査方法

電子申請サービス(web 調査)を活用して、回答を回収

エ 調査時期

令和 4 年 8 月 22 日 (月) ~ 10 月 7 日 (金)

オ 調査結果の主な概要

① 高校生活、学習内容の満足度

満足 + どちらかといえば満足	高校生活			学習内容		
	高校2年生	高2保護者	卒業生	高校2年生	高2保護者	卒業生
R4調査	64.9%	76.2%	81.5%	72.4%	69.5%	83.0%
H17調査	52.2%	71.8%	82.2%	53.4%	61.0%	81.1%

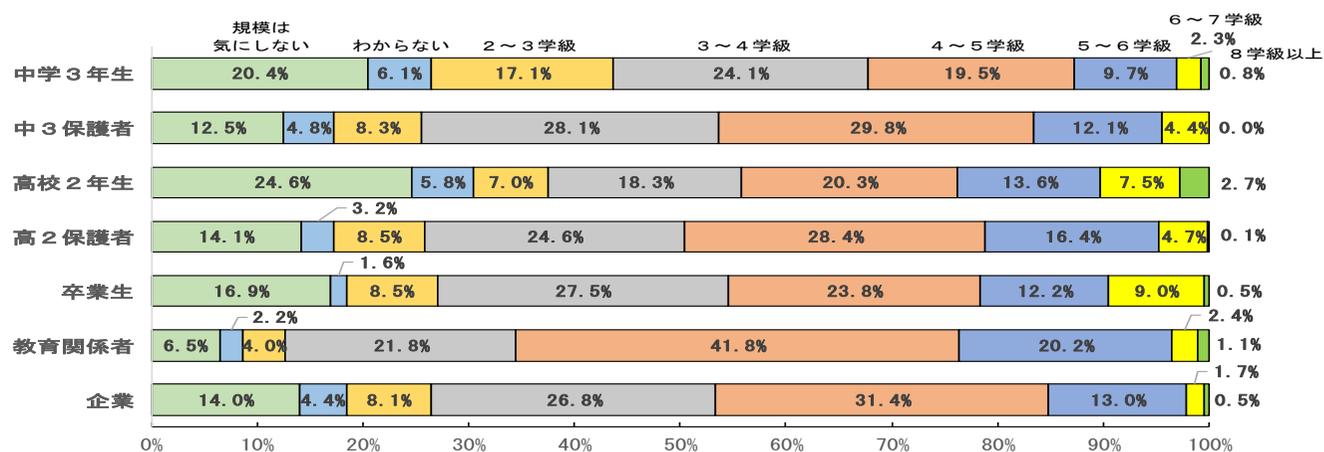
② 興味や関心のある学習

- ・ 中学3年生は、「人文科学や社会科学」「スポーツや健康に関すること」の回答が多く、中3保護者は、「データサイエンスなどの情報に関すること」「外国語や国際理解に関すること」の回答が多い。

③ 普通系学科と職業系学科の定員の割合

- ・ 中3・高2保護者、卒業生、教育関係者対象の回答。どの対象者も「これまでと同程度でよい」の回答が最も多く、次に、教育関係者以外では「職業系専門学科の割合を増やし、普通系学科の割合を減らすほうがよい」の回答が多い。

④ 有意義な高校生活を送るための学校規模



⑤ 望ましい県全体の高校像

- ・ 全調査対象者を通じて、「学級数が多い学校から少ない学校まで、バランスよくあることが望ましい」の回答が最も多い。

⑥どのような高校があれば良いか。

- ・ 中学3年生、高校2年生は、友人との関係を重視する回答が多い。保護者、教育関係者、企業は、「きめ細かい指導が行われる学校」の回答が最も多い。

⑦どのような特色を持った学校があれば良いか。

- ・ 全調査対象を通じて、前回同様、「資格取得や就職に必要な技能」、「興味・関心や進路希望に応じた科目選択」の回答がいずれも多い。

カ 会議での主な意見

- ・ 友達とうまくやれることは将来的にコミュニケーション能力が育つことになる。高校においては、友達と一緒に一つのことを成し遂げるような授業がもっと増えるとよいのではないか。
- ・ 生徒、教育者、保護者、企業が考えていることに対して差異がはっきり出ている項目に注目すると、生徒の育て方の工夫という点で考えていけることがあるのではないか。
- ・ 生徒たちの進路実現に向けてしっかりと指導していくことは必要条件であるが、どの学校もコミュニケーション能力を含めた全人教育が大切であり、卒業に向けた生徒の成長を見通して送り出すことが使命だ。
- ・ 普通科、職業科のバランス、学科やコースの現状というのはそれほど問題ないのではないか。働く人の主体性がいい意味で重視されている社会の中で、良いバランスを高校教育は現状の状態で保っている。
- ・ 入学後に自分のやりたいことが見えてくる、自分の進む先を変えてみたいという生徒にチャンスを与える考え方、仕組みが必要なのではないか。
- ・ 高校において、それなりの規模は必要ではないか。富山県にとって将来にわたって、産業界をふくめて必要な、残さなければならないものがあるのではないかという視点も残しておいてもらいたい。
- ・ 高校生活で身につけるものという項目において、高校生、卒業生、企業と教える側との認識の違いに注目すべきである。
- ・ 「これからも設置されていた方が良いと思う学科」の結果を見ると、教育関係者が他の対象者との相関が低いことから、現状維持を望む傾向が強いのではないか。子どもファーストの発想に立つならば、教育関係者の意見を重視して決めるのは、いかがか。

3 今後の予定

12月15日(木)に第6回の検討委員会を開催予定としている。